

## 「情報公開文書」

### 課題名：

急性期病院における骨粗鬆症患者のための多職種連携によるリエゾンサービスの取り組み  
—Fracture Liaison Service;FLS・Osteoporosis Liaison Service;OLS の構築—

### 1. 研究目的

未だ治療を受けていない多くの骨粗鬆症患者の治療率・治療継続率を向上させるため、骨粗鬆症治療に介入出来る機会が多い急性期病院の当院でスクリーニングを行い、地域との病診連携のもと、DXA を保有する病院が定期的なフォローアップ行う循環型リエゾンサービスを「労災モデル」として構築し、全国労災病院ならびに急性期病院にモデルケースとして展開することを目的とします。

### 2. 研究対象・研究方法と用いる試料・情報の種類

Fracture Liaison Service;FLSの構築

対象患者

電子カルテ導入（2018年5月）以降に当院で手術を行った脆弱性骨折例

方法

調査項目

- (1) 患者背景データ：年齢（受傷時）、性別、基礎疾患、病歴、骨折歴の有無・内容、血液検査、喫煙、骨密度、受傷以前の骨粗鬆症治療の有無・内容
- (2) 外傷データ：受傷日時、受傷機転、
- (3) 骨折データ：骨折側（右側、左側）、骨折部位及び型
- (4) 手術データ：手術日時、術式
- (5) 結果：臨床経過、骨粗鬆症治療介入状況の有無・内容、逆紹介率

上記の調査項目より脆弱性骨折例の骨粗鬆症治療介入の現状と問題点を把握し、改善・方法を検討します。

## Osteoporosis Liaison Service;OLSの構築

### 対象患者

DXAの骨密度データより、

電子カルテ導入（2018年5月）以降の骨粗鬆症例

65歳以上の女性

危険因子を有する65歳未満の閉経後から周閉経期の女性

70歳以上の男性

危険因子を有する50歳以上70歳未満の男性

脆弱性骨折を有する

低骨密度・骨量減少をきたす疾患に罹患している、またはそれを引き起こす薬物を投与されている成人

※危険因子とは、過度のアルコール摂取（1日3単位以上）

### 方法

#### 調査項目

(1) 患者背景データ：依頼科、年齢、性別、基礎疾患、病歴、骨折歴の有無・内容、血液検査、喫煙、危険因子、骨密度、骨粗鬆症治療の有無・内容

(2) 結果：臨床経過、骨粗鬆症治療介入状況の有無・内容

上記の調査項目より脆弱性骨折例の骨粗鬆症治療介入の現状と問題点を把握し、治療未介入例に対する改善・方法を考察します。

個人が特定できる情報は研究には利用しませんので、本研究から個人情報が出ることはありません。また研究結果を論文等で発表する際は、個人が特定できない形式にします。

### 3. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、患者様の情報が研究に使用されることについて、患者様もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究に使用しませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、患者様へ不利益が生じることはありません。

(問い合わせ窓口)

東北労災病院

所在地：981-8563 宮城県仙台市青葉区台原 4 丁目 3-21

電話：022-275-1111（代表）

研究責任者：東北労災病院整形外科 関節外科部長 小河 裕明

研究代表者：東北労災病院 中央放射線部 菅原 光太